

セッション区分	タイトル		登壇者（SYは座長を掲載）	抄録	会場	日程		日整会単位 取得	必須分野	認定番号	他学会単位	オンデマンド 配信	オンデマンド配信で 取得可能な単位
教育研修講演	6	萎縮性偽関節の基礎と外科的治療　―骨折治療における生物活性とは？―	渡部 欣忍	S1749	第2会場	10月17日（金）	9:40～10:40	N	1, 2	034	手外科学会	有り	日整会
	7	整形外科医のための実践医療統計　―エビデンスに基づく診療と論文作成のために―	岡 敬之	S1753	第2会場	10月17日（金）	13:40～14:40	N	1	053	―	有り	日整会
	8	間葉系幹細胞を用いた関節内治療の過去・現在・未来	関矢 一郎	S1824	第5会場	10月17日（金）	13:40～14:40	N, S	1, 12	054	―	有り	日整会
	9	5年後も同じ手術でいいですか？　―少しの努力で未来は大きく変えられる―	乾 洋	S1836	第6会場	10月17日（金）	10:10～11:10	―	―	―	リハビリ テーション 医学会	有り	リハビリ
		人工関節研究の活性化にむけて　―指導者の立場からの提言―	加畑 多文		第6会場	10月17日（金）							
	10	抗菌薬適正使用におけるトピックス　―整形外科領域を中心に―	川村 英樹	S1837	第6会場	10月17日（金）	11:20～12:20	N	14-2	041	―	有り	日整会
	11	Academic surgeon を目指して苦勞してきたこと　―脊椎脊髄外科医の理想と本音―	中島 宏彰	S1838～1839	第6会場	10月17日（金）	13:40～14:40	N, SS	1, 7	051	―	有り	日整会
		脊椎脊髄外科研究のすすめ　―優れた研究のコツと要点―	菅野 晴夫		第6会場	10月17日（金）	13:40～14:40						
	12	脊椎診療におけるAI の実装	藤森 孝人	S1839	第6会場	10月17日（金）	14:50～15:50	N, SS	1, 7	056	―	有り	日整会
GJSOT International symposium	1	New technology in joint surgery 1	Dietmar Pennig, Toshifumi Ozaki	S1871～1873	第8会場	10月17日（金）	13:40～14:40	N, Re	2, 5	050	―	有り	日整会
	2	New technology in joint surgery 2	Wolfram Mittelmeier, Koji Hiraoka	S1874～1876	第8会場	10月17日（金）	14:50～15:50	N	1, 11	058	―	有り	日整会
	3	New technology in spine surgery	Michael Rauschmann, Masashi Yamazaki	S1877～1879	第8会場	10月17日（金）	16:00～17:00	N, SS	7	062	―	―	―
共同シンポジウム	1	Advances in patellofemoral joint treatment	James P. Stannard, Yuka Kimura	S1542～1545	第2会場	10月16日（木）	10:10～12:10	N, S	2, 12	007	―	有り	日整会
	2	変形性膝関節症を考える	内尾 祐司, 古賀 英之	S1548～1550	第2会場	10月16日（木）	15:30～17:00	N, S	2, 12	023	―	有り	日整会
	3	バイオマテリアル研究の実用化へ向けて	松田 秀一, 京本 政之	S1601～1603	第6会場	10月16日（木）	10:40～12:10	N	1	008	―	有り	日整会
	4	整形外科基礎研究とリハビリテーション医学のマリアージュ	宮本 健史, 緒方 徹	S1619～1621	第7会場	10月16日（木）	14:20～15:50	N, Re	13	019	―	有り	日整会
	5	脊椎・脊髄再生医療の最先端	渡辺 雅彦, 國府田 正雄	S1741～1743	第1会場	10月17日（金）	8:30～10:00	N, SS	1, 7	029	―	―	―
	6	非定型骨折の科学　―疫学・発症メカニズムの解析―	野田 知之, 澤口 毅	S1750～1752	第2会場	10月17日（金）	10:50～12:20	N	2, 4	038	―	有り	日整会
	7	これからの整形外科研究における骨組織形態計測学の実際と意義　―動物実験から臨床試験まで―	酒井 昭典, 高畑 雅彦	S1754～1755	第2会場	10月17日（金）	14:50～16:20	N	1, 4	059	―	有り	日整会

セッション区分		タイトル	登壇者（SYは座長を掲載）	抄録	会場	日程		日整会単位 取得	必須分野	認定番号	他学会単位	オンデマンド 配信	オンデマンド配信で 取得可能な単位
共同シンポジウム	8	小児整形外科股関節領域におけるAI 利用と最新研究	稲葉 裕, 瀬川 裕子	S1840~1842	第6会場	10月17日（金）	16:00~17:30	N	3, 11	061	—	有り	日整会
	9	骨・軟部腫瘍の遺伝子検査による診療の発展	米本 司, 小林 寛	S1846~1848	第7会場	10月17日（金）	10:40~12:10	N	5	037	—	有り	日整会
	10	有限要素解析法で語る外傷治療	渡部 欣忍, 塩田 直史	S1850~1852	第7会場	10月17日（金）	13:40~15:10	N	1, 2	052	—	有り	日整会
	11	腱板修復促進に関する基礎的研究	西中 直也, 谷口 昇	S1853~1855	第7会場	10月17日（金）	15:30~17:00	N, S	1, 9	060	—	有り	日整会
シンポジウム	1	ACL 再建術後成績向上に向けた基礎研究の最前線	中田 研, 松下 雄彦	S1539~1541	第2会場	10月16日（木）	8:30~10:00	N, S	1, 12	001	—	有り	日整会
	2	脊柱側弯症の病態解明から早期発見への道しるべ	高橋 淳, 出村 諭	S1593~1595	第5会場	10月16日（木）	8:30~10:00	N, SS	1, 7	002	—	有り	日整会
	3	Frontiers in prosthetic design and biomaterials research	尾崎 誠, おおえ 賢一	S1598~1600	第6会場	10月16日（木）	9:00~10:30	N, R	1, 11	005	—	—	—
	4	脊柱靱帯骨化症研究の最前線	川口 善治, 吉井 俊貴	S1607~1609	第6会場	10月16日（木）	16:00~17:30	N, SS	1, 7	025	—	有り	日整会
	5	手外科領域における末梢神経の再生医療	市原 理司, 田中 啓之	S1622~1624	第8会場	10月16日（木）	8:30~10:00	N, SS	8, 10	003	—	有り	日整会
	6	ここまでわかる Omics解析　ー現状と課題ー	妻木 範行, 石川 正和	S1745~1747	第1会場	10月17日（金）	14:50~16:20	N	1	055	—	—	—
	7	骨関節組織再生トランスレーショナルリサーチの最前線	中島 康晴, 高橋 謙治	S1820~1822	第5会場	10月17日（金）	8:30~10:00	N, S	11, 12	031	—	有り	日整会
	8	整形外科疾患におけるAIの活用　ー診断・治療の新時代ー	茂呂 徹, 藤田 浩二	S1825~1828	第5会場	10月17日（金）	14:50~16:20	N	1	057	—	有り	日整会
	9	関節手術におけるロボット・ナビゲーション技術の最前線	岡崎 賢, 高尾 正樹	S1833~1835	第6会場	10月17日（金）	8:30~10:00	N, R	11, 12	032	—	有り	日整会
	10	骨・軟部腫瘍における画像技術の進歩と臨床応用	川島 寛之, 松峯 昭彦	S1843~1845	第7会場	10月17日（金）	9:00~10:30	N	1, 5	033	—	有り	日整会
ランチョンセミナー	1	基礎研究から見えてきた大腿四頭筋腱を用いたACL再建術の適応と課題	中瀬 順介	S1546	第2会場	10月16日（木）	12:30~13:30	N, S	2, 12	011	—	—	—
		ACL reconstruction using QT graft: Clinical experience and literature review	John Xerogeanes										
	2	膝関節新規治療開発からヘルスプロモーション「活き活き健康」へ：外科治療・再生医療・プログラム 医療機器とデジタルツイン活用	中田 研	S1561	第3会場	10月16日（木）	12:30~13:30	N, S	1, 12	012	—	—	—
	3	感染性脊椎炎診断の新戦略：変化する起炎菌	谷島 伸二	S1584	第4会場	10月16日（木）	12:30~13:30	N, SS	7	013	—	—	—
	4	今こそ見直す医療安全　ー医療従事者が実践すべき被曝低減の新潮流ー	山下 一太	S1597	第5会場	10月16日（木）	12:30~13:30	—	—	—	—	—	—

セッション区分		タイトル	登壇者（SYは座長を掲載）	抄録	会場	日程		日整会単位 取得	必須分野	認定番号	他学会単位	オンデマンド 配信	オンデマンド配信で 取得可能な単位
ランチョンセミナー	5	疼痛機序から考える変形性膝関節症の治療戦略	阿漕 孝治	S1603	第6会場	10月16日（木）	12:30~13:30	N, Re	1, 12	015	—	—	—
	6	肩関節周囲炎の治療戦略と Scaffold 技術による腱板修復の可能性 ―基礎から臨床へ―	八田 卓久	S1618	第7会場	10月16日（木）	12:30~13:30	N, Re	1, 9	016	—	—	—
	7	Pre-clinical, clinical & registry data of a zirconium nitride multilayer ceramic coating on an advanced mobile bearing posterior stabilised design for total knee arthroplasty	Wolfram Mittelmeier	S1632	第8会場	10月16日（木）	12:30~13:30	N	12	017	—	—	—
	8	腰部脊柱管狭窄症の“痛み”へのアプローチ ―MiroTAS 試験と事後解析が示すミロガバリンの臨床的位置づけ―	二階堂 琢也	S1752	第2会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N, SS	4, 7	042	—	—	—
	9	本来の膝関節の動きを目指して ―ピボットパターンが TKA デザインと臨床成績に及ぼす影響―	上村 雅之	S1774	第3会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N, Re	1, 12	043	—	—	—
	10	半月板損傷の診療 ―基礎医学研究から臨床まで―	古松 毅之	S1804	第4会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N, S	1, 12	044	—	—	—
	11	CT-based Robotic System による下肢人工関節置換術の意義と可能性	水島 正樹	S1824	第5会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N	11, 12	045	—	—	—
	12	ソフトマテリアル研究に基づく新規軟骨修復・再生治療法の開発	岩崎 倫政	S1838	第6会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N, S	1	046	—	—	—
	13	ウェアラブルデバイスによる人工股関節置換術後の機能回復モニタリング：新たな可能性を拓く	濱井 敏	S1849	第7会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N, Re	11, 13	047	—	—	—
	14	生体軟骨の潤滑機構に着想を得た生体親和性PMPC 処理人工股関節の実用化と15 年成績	茂呂 徹	S1870	第8会場	10月17日（金）	12:30~13:30	N	1, 11	048	—	—	—
アフタヌーンセミナー	1	最近の話題とともに考えるPTH1 受容体作動薬による骨粗鬆症治療	宮腰 尚久	S1569	第3会場	10月16日（木）	16:30~17:30	N, SS	1, 4	026	骨粗鬆症学会	—	—
	2	睡眠・覚醒状態遷移を司る神経ダイナミクスとオレキシンの機能的役割	櫻井 武	S1592	第4会場	10月16日（木）	16:30~17:30	N	14-5	027	—	—	—
	3	The evolution of the shoulder prosthesis from aTSA to RSA	Alessandro Castagna	S1621	第7会場	10月16日（木）	16:30~17:30	N, Re	9, 13	028	—	—	—

日整会認定教育研修 受講取得単位（認定単位種別）

N: 日整会専門医単位 S: スポーツ単位 R: リウマチ医単位
SS: 脊椎脊髄病医単位 Re: 運動器リハビリテーション医単位

日整会認定教育研修 受講必須分野（専門医必須14分野）

- 1 整形外科基礎科学
- 2 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)
- 3 小児整形外科疾患(先天異常, 骨系統疾患を含む, ただし外傷を除く)
- 4 代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)
- 5 骨・軟部腫瘍
- 6 リウマチ性疾患, 感染症
- 7 脊椎・脊髄疾患
- 8 神経・筋疾患(末梢神経麻痺を含む)
- 9 肩甲帯・肩・肘関節疾患
- 10 手関節・手疾患(外傷を含む)
- 11 骨盤・股関節疾患
- 12 膝・足関節・足疾患
- 13 リハビリテーション(理学療法, 義肢装具を含む)
- 14-1 医療安全
- 14-2 感染対策
- 14-3 医療倫理
- 14-4 その他の共通講習
- 14-5 1～13に当てはまらない領域講習

14-1～4は機構認定専門医共通講習。
14-1～3は機構認定専門医必修講習で、5年間で各1回以上受講しなければならない。